

ときめき人

Tokimeki bito



優しさの シンボル掲げ 早期発見、治療を 呼び掛け

追町・永田

尾形 賀代さん

おがた かよ
1974年生まれ 血液型/B型

Profile

栗原市栗駒出身。医師事務
作業補助者として働く傍
ら、乳がんの啓発活動を続
ける。夫と3人の子どもの
5人家族。



(右)ピンクリボンは、乳がんの啓発運動を表すシンボル。アメリカで乳がんによって亡くなった人の家族が「悲劇が繰り返されないように」と願いを込めて作ったリボンが起源。



「乳がんは早期に発見することで、高い確率で治るといわれています。患者本人はもちろん家族を含め、悲しい思いをする人を減らしたい」と乳がん啓発への思いを口にする。

尾形さんは2018年12月、乳がんの早期発見、治療の大切さを啓発する市民グループ「ピンクリボン～プレストサポートTOME」を創設。ピンクリボンは、検査や早期受診の推進など、世界規模の啓発キャンペーンを表すシンボルになっている。

創設のきっかけは、乳がんを患った人から「忙しくて乳がん検診を受けず、発見が遅れてしまった」と後悔の声を聞いたこと。後悔する人を減らしたいと乳がんについての勉強を始め、ピンクリボンアドバイザー認定試験を受験。初級、中級に続けて

合格し、今後は上級の合格を目指す。

現在、グループは40、50代のメンバー5人で活動。イベントでの啓発やフェイスブックでの情報発信、メールで相談に応じている。「啓発活動をする事で、過剰に心配を与え不安にさせてしまうという声もありますが、今は11人に1人が乳がんになる時代。誰でも発症の可能性があります。月に1回、セルフチェックをすることで、普段の状態を知り、異常があったときの早期発見につなげてほしい」と活動の意義を訴える。

今後は学生向けのがん教室など、若い世代にも啓発を広げていく予定。一人でも多くの人の早期発見につながるよう、ピンクのリボンを掲げ、正しい知識を伝えていく。

編集後記

▼2020年は私にとって40歳を迎える節目の年。40歳を過ぎると疲れやすくなるなど、体質が変わると耳にすることがあります。仕事、健康、家族に変化がある年代でもあります。公私共に忙しくなりそうですが、健康に気を付けて過ごし、来年の本厄に備えたいと思います。(高橋)

▼新年を迎え、厄払いを兼ねた同級会へ参加。会場では、3町域の厄払い兼同級会が開催されました。厄を払い、同級会までセットで開催するというのは全国的なものではなく、東北地方に伝わるイベントのようです。もはや、地元の伝統行事といえるのかも知れません。(小野寺)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>